



FICEC は外国人の駆け込み寺

埼玉県指定・認定特定非営利活動法人ふじみの国際交流センター 理事長 石井 ナナエ

ふじみの国際交流センター (FICEC) の概要

1985年から10年間、公民館を借りて日本語教室を行った経験から、24時間365日、外国人と日本人が交流し学習する拠点が必要と気づき、1997年に発起人2人の資金を元に東武東上線福岡駅近くに1軒家を借りて活動を始めました。



日本の文化体験「かきぞめ」

オウム真理教が世間を騒がせていた頃で、活動開始時は「変な団体が家を借りた」と、近隣住民がのぞきに来たものです。話をするうちに「良い団体じゃないか」と納得し、庭に花を植えてくれたり日本の料理を運んでくれたり、スタッフとして活動に参加してくれる人もいて24年経った今でも懐かしい思い出です。



会員向け情報誌

FICEC の活動

「多文化が未来を拓く」を合い言葉に、外国人の自立支援として生活相談・パソコン教室・日本語教室・子供の学習支援・7か国語の情報誌の発行・国際交流事業・翻訳・通訳・インターンシップ等を行っています。

自慢は外国人と日本人の両スタッフが互いを補い合いながら、年間2,500人以上訪れる外国人に、家族ではないけれど信頼できる他人とし



国際交流料理教室

て寄り添い型の支援をしていることです。

翻訳通訳や生活相談に外国人スタッフの力は欠かせません。来所した人も母語でじっくりと話ができるので、帰りは晴れ晴れとした顔になっているのがわかります。

これから在留外国人はますます増えると思うと、日本人だけではもはや対応できません。先に来た外国人が後から来た同国人のために、積極的にボランティア活動に関わって欲しいと願っています。



多言語情報誌「インフォメーションふじみの」

自治体との連携

埼玉県の在留外国人が人口の2.6%を占めるようになり、共生社会実現に向けてさまざまな施策が推進されるようになりました。政府の動きの遅さに辟易していた者にとって、やっとこちら向きの風が吹いてきた気がします。

総収入の21%、事業収入の44%を富士見市・ふじみ野市・三芳町(2市1町)・埼玉県からの業務委託に頼っているFICECにとって自治体と連携・協働することは必須で、ホウレンソウ(報告・連絡・相談)は外国人支援の充実と事業の存続に欠かせません。



県や市町の多文化共生推進会議・人権推進会議の審議委員や社会教育・要保護児童対策審議会委員など「頼まれたら断らない」を実践し、現在15の委員会の委員として理事・スタッフが関わっています。

「2市1町国際化担当者会議」では外国人の現状と課題について職員の人たちと侃々諤々の会議が開かれていて、市民の声に耳を傾けてくれる行政の姿勢にいつも感謝しています。

コロナ禍の FICEC

早々に飛沫防止シートを設置し、窓やドアを開け放したまま換気に努め、検温・消毒・マスクの着用を促し、「猛暑にもコロナにも負けない」と励ましあい毎日活動しました。ずっと家賃の支払いに苦慮して来ましたが、いつでも自由に活動できる拠点があることの良さにコロナ禍で気が付きました。

在留外国人にもコロナの影響は厳しく、臨月なのにロックダウンで帰国できなくなったネパールの妊婦さんのサポート、失業や入社禁止になった飲食業に関わる人の生活費の相談、アルバイトを断られ家賃が払えな

くなった留学生の住宅確保給付金の手続き、ビザが切れてしまった人への対応など相談が後を絶ちません。



飛沫防止シートを設置しての日本語支援

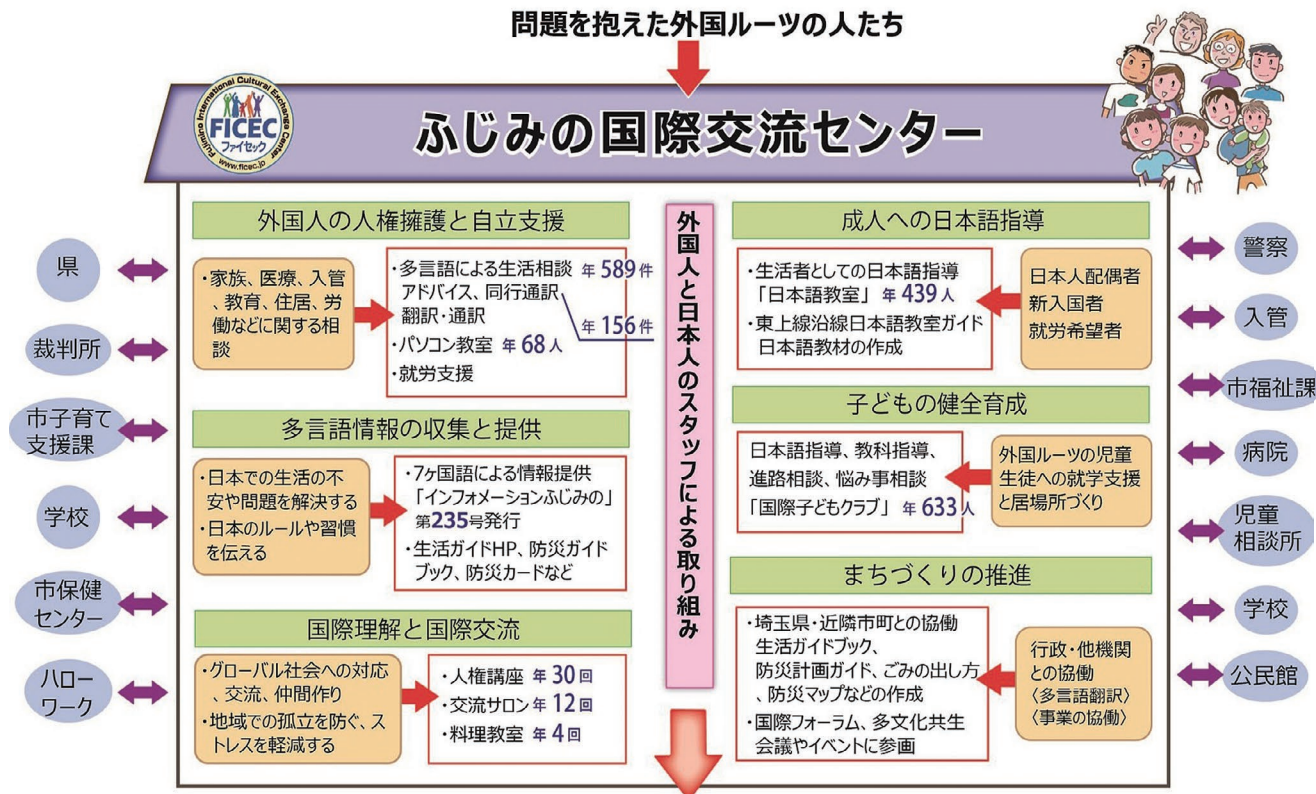
10万円の特別定額給付金に始まり、休業支援等の給付金の申請の方法、社会福祉協議会の緊急小口資金・生活福祉資金の特別貸付申請方法など、100件以上の相談を受けました。

「給付金はもらえるけど、貸付金は必ず返すのよ」と説教も忘れません。外国人に権利を知らせるのは勿論大切ですが、義務もしっかり伝えるのが本当の外国人支援だと考えているからです。

悩みは受益者負担が難しい上に補助金や助成金がないことで、事業を充実させるために民間企業の助成金申請に何度もチャレンジしなければならないことです。外国人支援に対する社会の理解が進むことを切望しています。

FICEC 活動一覧

問題を抱えた外国ルーツの人たち



日本での円滑な社会生活